

宮崎銀行ふるさと振興助成事業 平成30年度 鹿児島県の4企業・団体に助成

株式会社宮崎銀行は、平成24年度の創立80周年記念事業を機に、鹿児島県におきまして地域産業の開発と振興を目的として、各分野で優れた取り組みを行っている事業者等を顕彰・助成してきました。平成26年度より、一般財団法人みやぎん経済研究所(理事長・平野 亘也)が鹿児島県の助成事業を引き継ぎ、本年度は以下の4企業・団体を助成先として決定しましたのでご紹介します。

産業開発部門 薩摩川内市港町360-31

株式会社ヨシカワ

代表取締役 吉川 修

「サークルフィーダ」の新商品・新技術の開発



1947年に電気工事・メッキ業として創業。78年、技術導入により新たに粉粒体供給機「サークルフィーダ」の研究開発を手掛け、3年後に飼料工場向けに1号機を販売した。その後、化学・食品等の分野で徐々に実績ができ、可能性が感じられたので85年に粉粒体供給機専門メーカーとして事業転換に踏み切った。

サークルフィーダは、貯蔵槽の下部に設置し、フラットな羽根の回転力を利用して流動性の悪い粉体原料を安定的に次の工程に供給する。この原理により、これまで難しかったさまざまな分野での粉体供給の課題を解決し、お客様の自動化・省力化・高品質化・コスト低減等に貢献。同類供給機では国内14%のシェアを有する。

「サークルフィーダ」の商標は世界45カ国で登録され、累積で9334台を出荷。このうち約20%が海外25カ国向けである。「既存技術で解決できない粉体供給の課題に取り組み、実験を繰り返して解決することでお客様の信頼が得られ、同時に当社技術も進化。今後はもっと海外販売を伸ばしたい」と吉川社長。

産業開発部門 鹿児島市松原町13-21

富士エネルギー株式会社

代表取締役 亘 元明

真空管形太陽集熱器の開発



1984年の創業以来、「自然エネルギーの有効利用」「循環型社会の構築」をテーマに、環境関連機器の製造およびシステム構築に取り組んできた。2006年に開発した主力商品の真空ガラス管形(ヒートパイプ形)太陽集熱器「FujiヒートP・SOLAR」は、新エネルギー・新エネルギー財団会長賞(優秀製品部門)、ものづくり日本大賞・九州産業局長賞を受賞するなど高い評価を受けている。

ユニット16本の真空二重ガラス管内に装着されたヒートパイプを介してヘッダーパイプに伝えられた熱で温水を作り、給湯や冷暖房に利用する。ガラス管内に給水する一般の太陽熱温水器に比べてトラブル発生が少なく、エネルギー変換率も40~60%(太陽光発電システムは7~18%)と高いのが特長。病院や福祉施設、浴場、スポーツ施設など業務用に全国各地で導入されている。

亘社長は「今後、太陽光で熱と電気の両方を生み出すハイブリッド型システムの実現とともに、太陽熱利用への一般の認識を深め、家庭向けにも普及・拡大を目指したい」と語る。

産業開発部門 霧島市国分上野原テクノパーク12-2

マイクロカット株式会社

代表取締役 高木 治邦

IoT化技術を使った、設備と人の統合稼働監視IoTシステムの開発



2003年に設立。金属部品の精密加工を手掛け、特にニッケル・コバルト合金、タングステンなど難削材の金属切削加工を得意とする。光通信のインフラに使われる部品では世界有数の技術とシェアを誇り、売上高の3分の1を海外企業との直接取引が占める。

「製造業の原点は、機械をいかに効率よく稼働させ、加工時間を短縮して付加価値を生み出すかにある」と(高木社長)との考えで、18年5月、IoT技術を駆使して、生産設備の稼働状態と人の作業状態を自動監視できる統合稼働監視IoTシステムを開発した。稼働状況の「見える化」でトラブルをいち早く発見。18年度末に社内の140台の設備でシステム構築が完了するが、これまでの導入実績では20%前後の生産性向上につながっている。

同システムの特長は、他社類似品の10数%という低コストで導入できること。今後、機械メーカーなどの展示会でPRしながら、中小の金属加工企業向けにシステムを販売・提供し、ものづくり企業の生産性向上に貢献することを目指す。

地方創生部門 鹿児島市川上町680-3

社会福祉法人麦の芽福祉会

理事長 内田 芳夫

移動販売事業「ハートとハートをつな号」



「重度の障害がある人にも地域の中で働ける場所を」と1981年に鹿児島市で無認可の共同作業所として発足。92年に法人認可を受け、鹿児島市、薩摩川内市、指宿市で子ども・子育て支援、就労支援、住居の提供などさまざまな事業を展開している。

2018年3月には新たに移動販売事業がスタート。1.5トン車に生協コープかごしま谷山店の野菜、肉、魚、総菜、日用品、お菓子などを積んで毎週火~金の4日間、鹿児島市、日置市、始良市の買い物に不便な地域、老人ホームなどを巡回している。

「ハートとハートをつな号」と名付けられた移動店舗は、半身に障害を持つ元大型トラック運転手が運転し、障害者4、5人が同乗。移動先でお年寄りや障害者などお客様の対応に生き生きと当たり、笑顔や会話が絶えない。水曜日は麦の芽の診療所の医師も同乗し、健康相談や血圧測定などに当たる。「過疎地の買い物支援は住民の安心とともに障害者の生きがいづくりにもなっている。他の地域からの要望も増えており、拡充も検討したい」と内田理事長。

一般財団法人 **みやぎん経済研究所**

宮崎市橘通東1丁目7番4号(第一宮銀ビル別館)

TEL:0985-20-5180

URL <http://www.mkk.or.jp>